

## 第2回仁淀川清流保全推進協議会議事録

平成23年1月14日（金）13:30～15:30 場所：佐川町立桜座 練習ホール

◆事務局（高知県環境共生課 鍋島課長） — 開会挨拶 —

◆事務局（上田）

「議題1 各部会での協議の報告等について」資料3ページ、4ページ「(1) 新たな取り組みの実践」について説明した。主な内容は次のとおり。

① 仁淀川一斉清掃の日の制定について

- ・毎年、10月24日前後の土曜日に一斉清掃を実施する。<各部会で合意済み>  
※10月、24日、(土)・・・「によど」の語呂合わせとしても適当。
- ・ラブリバー仁淀川パートナーシップ（仁淀川下流域の清掃）が毎年10月に実施されていることから、上流を含めた流域全体で、この日を一斉清掃の日に定めて清掃を実施する。
- ・一斉清掃の実施に関しては、今後関係機関で実施方法を協議していく。

◆山崎委員

清掃だけでなく何かイベントを組み合わせたほうが人が集まりやすい。10月24日は語呂あわせでよいと思うが、人が集まって清掃だけで終わるのはさびしい。一斉清掃を実施することで、何でもいいが、繋がりが生まれてくるのであれば賛成する。

◆事務局

楽しいイベントと清掃を組み合わせる予定。人が集まることで清掃にも関心を持ってもらえる付加価値が生まれるイベントにしたい。

◆石川会長

各部会が中心となって清掃の実施に向けて検討していくと思うが、地域住民の意見も聴いて知恵を出し合いながら実施した方がよい。

◆山崎委員

この一斉清掃が、仁淀川を流域全体で守っていくうえでの、起爆剤となればいいのか。

◆三戸委員

国交省では、毎年7月を河川愛護月間と定め、仁淀川下流の直轄管理区間で、河川の清掃を実施している。今回の清掃は、高知市が実施している浦戸湾・七河川の一斉清掃日と同じ日に実施することとしているが、ゴミの処理方法など市町村ごとに取り扱いが違っているため、統一できたらいいのだが。また、新たに決定する仁淀川流域全体での

一斉清掃は、参加者が集まりやすいという観点から、清掃場所を数箇所に絞って実施した方がよい。

◆事務局（東谷）

本協議会で仁淀川一斉清掃の日の承認をいただいた後、実施日、実施方法等は、河川管理者（国交省、県土木事務所）、市町村など関係機関で協議して、詳細を決定していく。

◆山崎委員

ゴミ集めが目的ではなく、参加者が集まることが目的であるため、清掃場所は絞って実施した方がよい。拾ったゴミを行政側が収集できる範囲も限られている。

◆吉本委員

ラブリバー仁淀川パートナーシップは、いの町加田から下流の国交省直轄管理区間を、14団体がそれぞれ清掃範囲を定めて、年3回清掃を実施し、合同で年1回（10月）一箇所に集合して清掃を実施している。河川敷に散乱するゴミを拾うことで、地域住民の河川環境の意識を高め、交流にもつなげていきたいと思っている。

しかし、活動範囲がいの町加田から下流の部分であり、上流から河口まで一体化した活動に繋がっていればと考えているため、仁淀川の一斉清掃の日が制定されれば、我々の取組みのさらなる発展にも繋がっていく。

◆石川会長

一斉清掃の日を制定することは、単なるゴミ拾いではなく、住民が仁淀川に関わる場の提供や、行政と住民の一体感を生み出すことにも繋がると思う。

◆山崎委員

ゴミ拾いだけではなく、仁淀川を守っていくためには、森林整備の重要性も分かっておく必要がある。

◆石川会長

それでは、事務局が提案した、10月24日前後の土曜日を、今年から、流域全体で仁淀川の一斉清掃を実施していくこととで、委員の皆さんよろしいでしょうか。

— 承認 —

◆吉本委員

今日は、実施する土曜日を決定しなくても良いのか。

◆石川会長

実施日等の詳細は、今後、関係機関で協議して決定する。

◆事務局（上田）

引き続き、資料5ページ、6ページを説明。主な内容は次のとおり。

② 高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金を活用した取組みについて

- ・「仁淀川シンポジウム2010」を平成23年2月6日（日）に開催する。委員の皆さんにも、シンポジウムへの参加支援など協力を願いたい。
- ・来年度以降も、年に1度、流域の団体同士の情報交流の場や、清流保全計画の実施状況等を報告する場として、シンポジウムを継続する。
- ・来年度（H23）からは、仁淀川清流保全推進協議会と仁淀川流域交流会議が共催で実施。（アサヒビール㈱の寄付金を活用させていただきたい）

◆大石委員

仁淀川流域交流会議として、シンポジウムの継続には賛成するが、いつまでもアサヒビール㈱からの寄付金をいただけるわけではないので、その点はご了解いただきたい。

◆山崎委員

寄付はいつまでいただけるのか。

◆事務局（東谷）

あと2回（平成23年と24年）は継続していただけると聞いている。

◆石川会長

来年度以降のシンポジウムは、まずはアサヒビール㈱からの寄付金を活用させていただき、シンポジウムを継続していくことでよろしいか。

－ 承認 －

なお、事務局より、資料7ページ「守ろう仁淀川エコカーニバル」、資料8ページ「仁淀川神楽と鮎と酒に酔う」（いずれも高知県豊かな環境づくり総合支援事業を活用）について、報告を行った。

◆事務局（上田）

引き続き、資料9ページを報告。主な内容は次のとおり。

③ 流域の情報共有・発信の仕組みづくりについて

- ・仁淀川の清流保全活動やイベント情報を、事務局（環境共生課）で集約し、流域全体へ情報発信する体制を整える。

各市町村環境部署 → 事務局（環境共生課）で取りまとめ → 各市町村環境部署 → 全体会・部会員 → 地元住民

◆山崎委員

情報発信は良いが、30人を予定し、100人集まると困るイベントもある。発信は良いが主催者側の意見を聞いておく必要がある。

◆森委員

昨年11月に、仁淀川地域観光協議会が設置され、ブログや、ホームページでも情報発信を行っている。

◆石川会長

情報発信するイベントの整理など、事務局で今後調整し、情報共有・発信の仕組みづくりを進めていってほしい。

◆事務局（上田）

引き続き、資料10ページ、11ページ、12ページの「(2) 今後の課題・対策等」を説明し、今後協議会でどのようなことから検討していくのか、意見交換を行った。

◆山崎委員

たくさんの人に川にふれあってもらうには、何か楽しいイベントの場所をスポットで決めて、環境学習の場づくりなどから始めたほうが良い。

◆吉本委員

前回のラブリバー仁淀川パートナーシップ合同の清掃は、いの町加田のキャンプ場で実施した。このキャンプ場は夏には大勢の人でにぎわうが、国道からの入口が分かりづらくて狭いのでなんとかならないか。また、大雨の時に近隣の民家が浸水するため、堤防を設置する工事が開始されると聞いているが。

◆三戸委員

現在用地買収に向けて、地元と調整中である。

◆山崎委員

堤防の規模はどのくらいか。

◆三戸委員

堤防天端幅は7メートルで、堤防高さは約3メートルとなる。

◆山崎委員

堤防を設置する場合は、河川周辺の美観を重視しないといけない。

◆森委員

川に親しむといった観点では、越知町観光協会の主催で、仁淀川の鎌井田地区から本村地区をめぐるカヌー体験や、日高村の能津地区では、屋形舟を浮かべる計画などもある。カヌーは最近、釣り人とのトラブルは少なくなったが、屋形船は仁淀川漁業協同組合との協議が必要で実現はしていない。

◆斎藤委員

仁淀川の近くを通るたびに、仁淀川はきれいで、夏場にはたくさんの人が遊んでいる、すばらしい川だと認識している。清流を守っていくためにも国有林の間伐を進めているが、木材価格が昔と比べて安くなり、また山から木を運ぶにしてもコストがかかるため、林野庁では木質バイオマスの利用拡大として、電力会社と連携し発電用の燃料として流通できるような施策を検討している。

また、市町村森林整備計画を図面化し、間伐する箇所を色づけするなどの取組みや、河川の一定範囲を広葉樹林化するなど、森林の手入れ不足で仁淀川が環境が悪化したと言われないように、今後に対応する必要があると考えている。

◆山崎委員

木を切れば光があたり、草が生える。ただし木を切るにしてもコストが高い。

◆日浦委員

この協議会が立ち上がって、仁淀川の保全のためには、森林の整備が大事だということを広めていただいたことは大きな成果だと思う。森林組合としても県の協力をいただきながら間伐の推進に努めているが、魚族のえさとして、川下の人々にとって、森林が整備されていけないことは共通の認識である。山は川の生みの親というキャッチフレーズで、仁淀川漁業協同組合さんも森林整備に取り組んでおられる。このように流域の皆さんが森林整備が重要だという認識を持っていただいていることは、かつては考えられないことであった。一斉清掃の日には、建設業界の方々も協力してもらえと思うし、仁淀川森林組合としても、一斉清掃には協力するので声をかけていただきたい。

◆大石委員

「山の日」や「海の日」にも色んなイベントがあるが、これらと連携してはどうか。流域にはイベントや行事が結構多く、各市町村役場も行事が重なると協力が難しいので、連携してまとめてイベントは実施してはどうか。何かやろうという際はシンポジウムを開催することが多いが、仁淀川漁業協同組合の主催のシンポジウムもある。イベントが多すぎると参加者も集まりにくい。

◆森委員

いの町の波川の河原で5月の連休に、仁淀川に紙の鯉のぼりを浮かべているが、洗うと汚れがひどい。毎年8月の水切り大会や、一斉清掃のときに、参加者に台所での水切り袋を配布してはどうか。家庭での生活排水による影響を少なくするように啓発していくことも大事だ。

◆事務局（東谷）

非常によいご提案をいただいたので、一斉清掃の実施方法を協議する際に、あわせて検討していきたい。

◆三戸委員

大雨時・ダム放流時の安全対策の面では、携帯電話で雨量の情報を確認できるシステムもあるが十分普及していないので、啓発をしていきたい。

◆大石委員

ダムからの放流時にはサイレンが鳴るが、水位が、秒速でこれぐらいと言われても一般の人にはどの位水位が上昇するのか分かりづらいので、何センチぐらい上昇するのか具体的にわかるようになればいいのでは。

— 終了 —